

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の数値目標の達成状況について

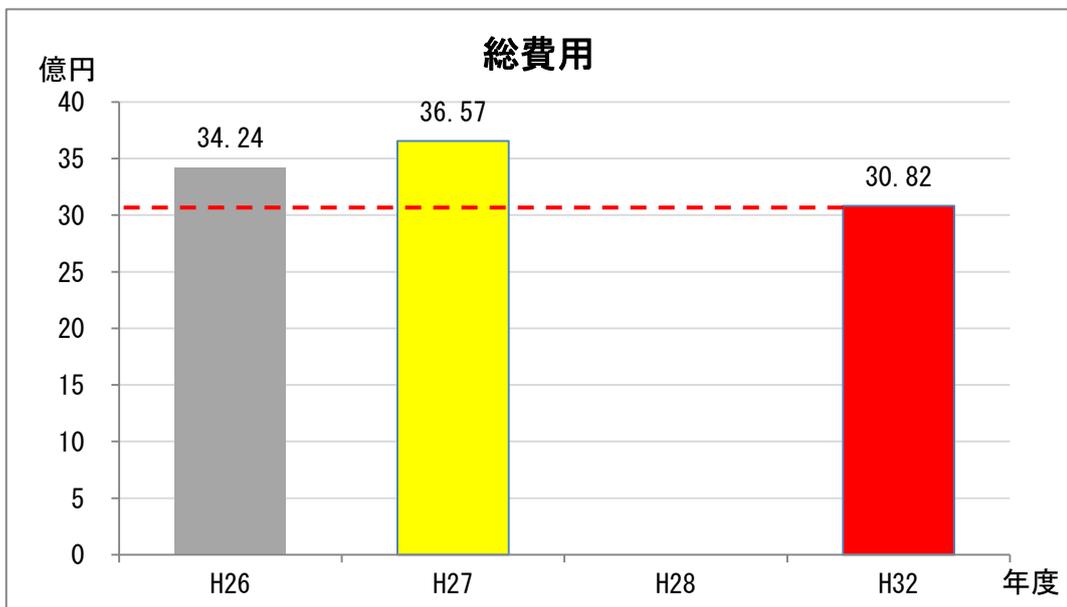
【指標No.1】 総費用

(1) 実績と数値目標

(単位：億円)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	H32
基準値・目標値		-	34.24	30.82
実績	H27	36.57	2.33	5.75
	H28	実績取りまとめ中		

(※ 目標値は、施設整備に関する減価償却費を除く。)



(2) 状況分析

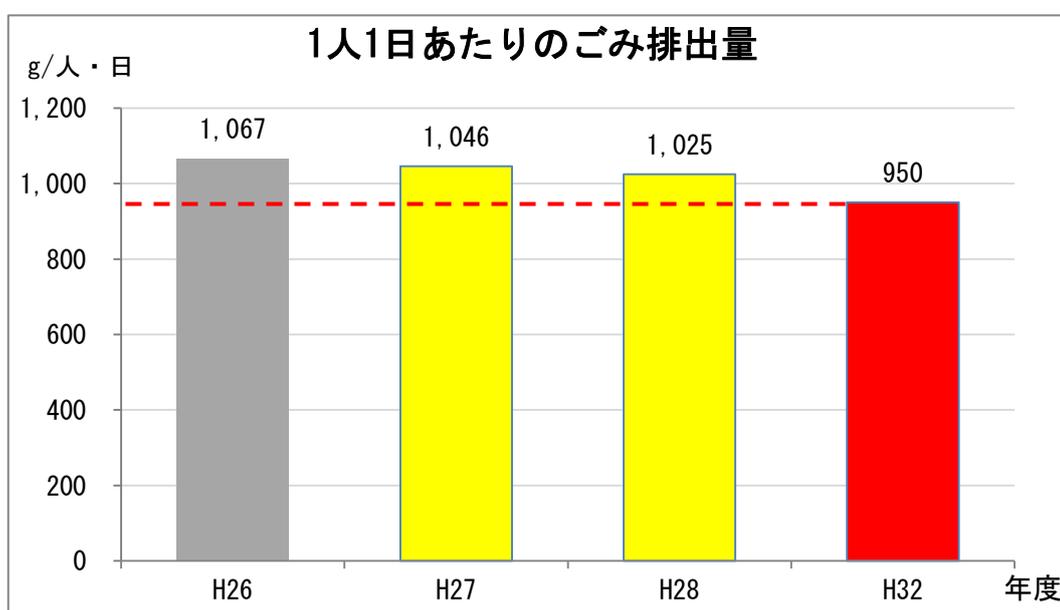
焼却灰のリサイクル量の拡大により、基準年度より増加しております。  
平成 28 年度分は、実績確定後に取りまとめて報告します。

【指標No.2】 1人1日あたりのごみ排出量

(1) 実績と数値目標

(単位：g/人・日)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	H32
基準値・目標値		-	1,067	950
実績	H27	1,046	△21	96
	H28	1,025	△42	75



(2) 状況分析

平成 28 年度の実績は、目標値を 75g/人・日超過しております。

平成 27 年度と比較すると、21g/人・日減少しており、平成 32 年度の目標を達成するためには、この減少率 (2.0%) を維持する必要があることから、これまで以上に、ごみの発生・排出抑制を図る必要があります。

〈参考〉 減少率を維持した場合の 1人1日あたりのごみ排出量 (g/人・日)

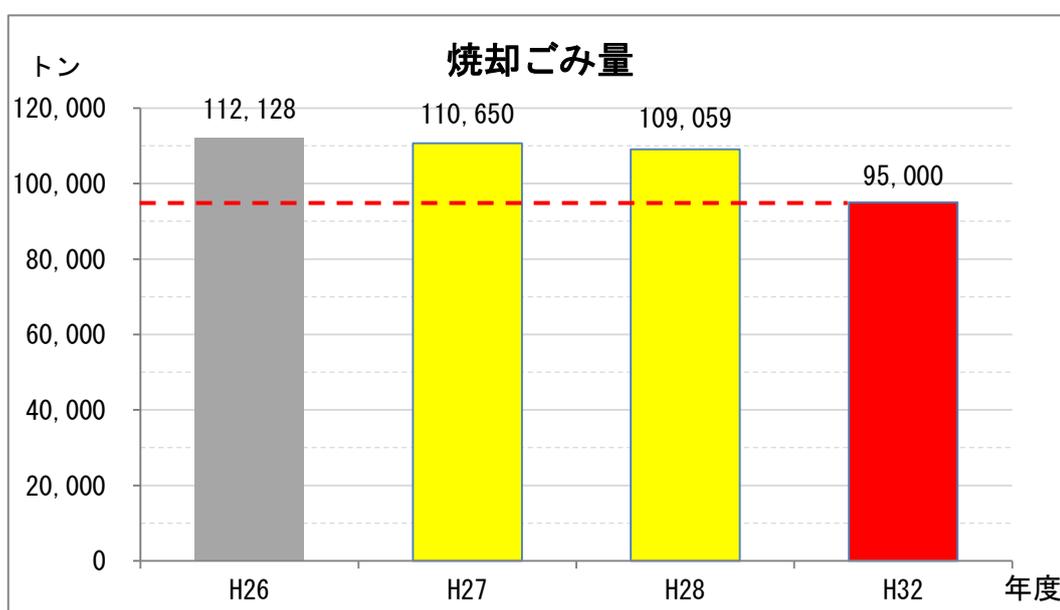
年度	排出量	前年差	減少率
H29	1,005	△21	2.0%/年
H30	985	△20	
*H31	965	△20	
H32	946	△19	

【指標No.3】 焼却ごみ量

(1) 実績と数値目標

(単位：トン)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	H32
基準値・目標値		-	112,128	95,000
実績	H27	110,650	△1,478	15,650
	H28	109,059	△3,069	14,059



(2) 状況分析

平成 28 年度の実績は、目標値を 14,059 トン超過しております。

東日本大震災後に急増した収集ごみは、その後減少傾向で推移しておりますが、平成 32 年度の目標をするためには、更なる減量が必要であることから、適正分別による混入ごみの減少や、生ごみの水切りなどによる減量努力によって、焼却ごみの発生・排出抑制を図ります。

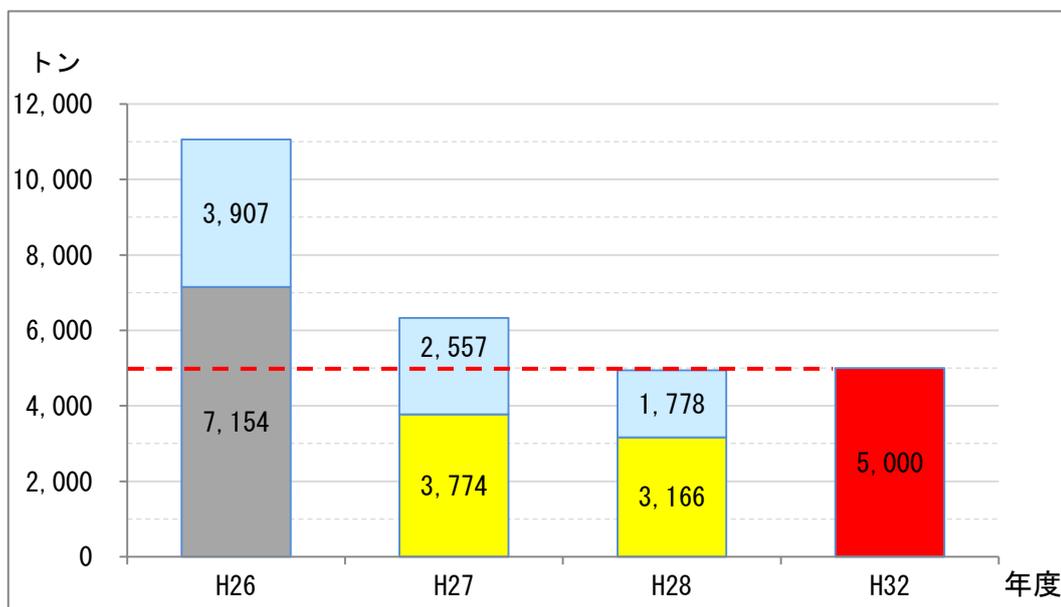
【指標No.4】埋立処分量

(1) 実績と数値目標

(単位：トン)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	H32
基準値・目標値		-	7,154	5,000
実績	H27	3,774	△3,380	△1,226
	H28	3,166	△3,988	△1,834

※ 一時保管した飛灰 H27：2,557 トン、H28：1,778 トン（下記グラフの水色部分）



(2) 状況分析

平成 28 年度の実績は、目標値を達成しました。

平成 28 年度中に発生した飛灰の一部は、施設内に 1,778 トン仮置きしておりますが、それを含めても目標を達成しております。

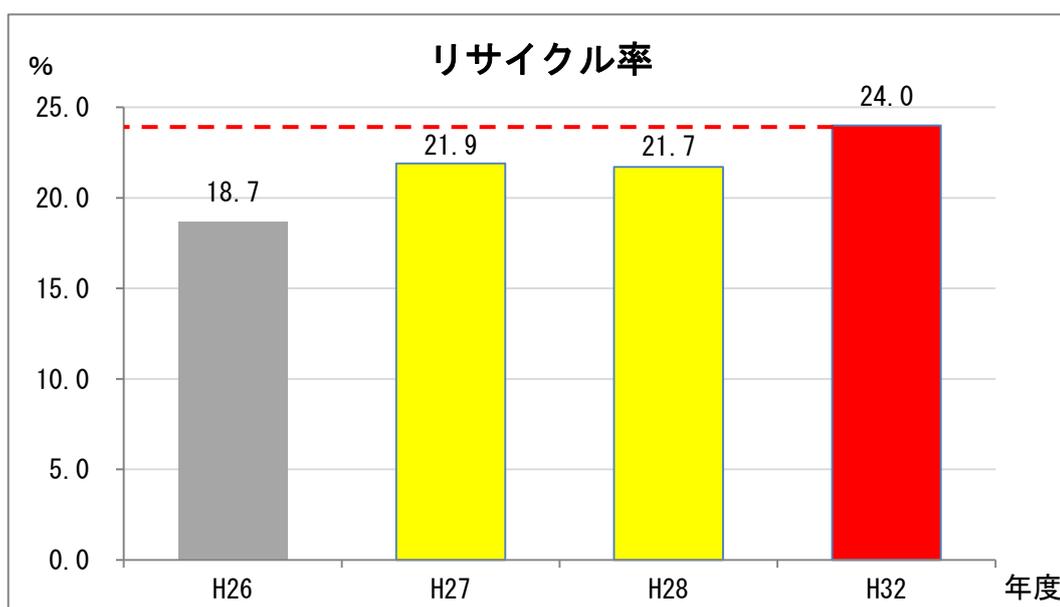
埋立処分量については、引き続き焼却灰等の処理残渣を、安定した再資源化を図りながら、直接埋立しているごみの再資源化方法等を調査・検討し、最終処分場の延命化を図ります。

## 【指標No.5】リサイクル率

### (1) 実績と数値目標

(単位：%)

		実績	基準値・目標値との比較	
			H26	H32
基準値・目標値		-	18.7	24.0
実績	H27	21.9	3.2	△2.1
	H28	21.7	3.0	△2.3



### (2) 状況分析

平成 28 年度の実績は、目標値に 2.3 ポイント及びませんでした。

施設の処理残渣の再資源化量の拡大を図り、ごみの総排出量も減少しましたが、資源ごみと古紙類の排出量の減少率が大きかったことにより、平成 27 年度と比較し、0.2 ポイント減少しています。

平成 32 年度の目標をするためには、今後も主灰及び飛灰の安定した再資源化を図りながら、焼却ごみを中心としたごみの発生・排出抑制と分別の徹底を図る必要があります。